

きこえとことば No.2



令和8年7月8日発行

佐賀県立ろう学校

支援部

夏の補聴器・人工内耳のメンテナンスについて

汗をかきやすい時期になりました。補聴器や人工内耳は汗や湿気に弱いため、日頃のメンテナンスがとても重要です。丁寧にお手入れをすることで、長く快適に使うことができます。

メーカーや補聴器店からの 夏のお手入れ ワンポイントアドバイス



- 毎日、乾燥ケース（ドライケース）に入れましょう。湿気や汗で、器械が錆びて故障することがあるため、ケースに入れる前に補聴器や人工内耳を専用の布で拭いてください。専用の布が無い場合は、乾いた布などで必ず拭くようにしてください。
- もし万が一乾燥ケースの中にシリカゲルが入っていない場合は、蓋を閉めずに、開けたままにしておいた方が良いでしょう。（シリカゲルを入れるのが基本です。）
- 補聴器に使用される空気電池は、乾燥状態にあると消耗しやすいため、乾燥ケースの外に出してください。その際、放電を防ぐために、空気穴を下向きにして置いたり、空気穴の部分にシールを貼ったりして、空気が入らないようにしてください。
- イヤモールドに耳垢が詰まり、聞こえに影響が出ることもあるので、定期的に見てブラシで優しくはらうなど、お手入れをお願いします。

教室等の環境整備について

ろう学校および寄宿舎では、手話や文字、絵などを活用し、幼児児童生徒がいつでも言葉に触れ、確認したり理解を深めたりできるよう、視覚的に分かりやすい環境づくりに取り組んでいます。



学習した言葉や物の名前、状態や気持ちを表す言葉などをいつでも確認できるように掲示する。
名詞は黄色、動詞は緑、形容詞は水色で色分けしている。



行事や予定などの確認にカレンダーを使用する。「昨日・今日・明日」や「先週・今週・来週」の確認を行う。



防災関連の言葉、避難時の約束などを手話や指文字、絵で掲示する。（寄宿舎）

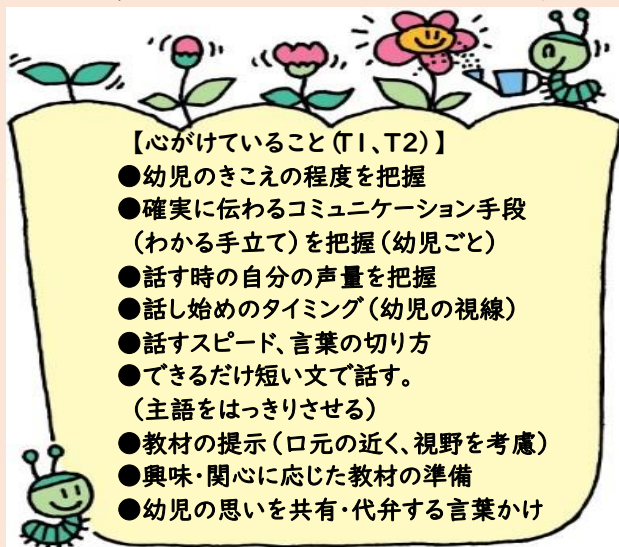


教科指導の際の工夫について

ろう学校では、教科指導等において、視覚的に分かりやすい提示や体験的な活動を大切にしています。実際に見たり、触れたり、体験したりすることを通して、言葉の理解を深め、豊かな言葉を育むことを目指しています。各教科等で大切にしていることや、理解を深めるための支援・工夫をいくつか紹介します。

幼稚部総合

(朝の会、帰りの会、クラス活動、合同活動など)

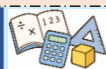


国語



- ・漢字を読むことが苦手な児童生徒が読みやすいよう、教科書の漢字にルビを振る。
- ・音読の際は、句読点に注意し、意味のまとまりを意識して読むよう促す。
- ・小学校低学年では全文を平仮名で表記されていることが多いため、言葉のまとまりを意識させる。(不自然な位置で文を区切って読んでしまうことが多いため。)
- ・単語の意味や助詞の使い方について、実際の動きや体験を取り入れながら、丁寧に確認する。
- ・ロールプレイや劇遊びを通して、言葉の理解を深める。
- ・文作りの際には、名詞は黄色、助詞は○、動詞は緑、形容詞は水色など、言葉の種類ごとに色分けし、視覚的に分かりやすくする。

算数・数学



- ・文章題は、イラストを添えて提示する。文章を区切ったり○を付けたりしながら、足し算言葉や引き算言葉など、式を立てるためのポイントを意識して指導する。
- ・初めは具体物やブロックを操作しながら、数量の関係や計算の意味について理解を深める。
- ・導入では体験的な活動を取り入れる。(正負の数の導入ですごろくをしたり、方程式の導入で天秤を使ったりする。)

英語



- ・新出単語については、必ず読み方をカタカナで提示する。
- ・生徒の実態に応じて、*Can I ~ ?* は「キャナイ」と読むなど、単語同士がつながって発音されることを示す。
- ・CDなどの機械音が聞こえにくい生徒へのリスニングの代替措置として、内容をすべて電子黒板に文字で表示し、文が右から左に流れる形式の英文を読んで問題を解くようにする。(英語検定における聴覚障害者向けのリスニング配慮も、同様の形式がとられている。)

社会



- ・新出用語や抽象的な用語は概念理解が難しくなりやすいため、文脈把握を支援する工夫を行う。例えば、用語を「法律」「地名」などカテゴリー別に色分けして提示したり、人物名については立場や役割が分かるイラスト付きカードを用いて整理したりする。(色分け例⇒ 法律 条約 役割 地名 制度・政策)

理科



- ・実験・観察では、「どこに注目して記録するのか」を事前に明確に伝え、見た事実をそのまま言葉や文章でまとめるように指導する。
- ・論理的に予想や考察を書くことができるよう、「私は○○だと思います。なぜなら□□□だからです。」などの定型文を提示する。
- ・考察活動では、1回目は教師と生徒が一緒に考え、2回目はそれを踏まえて生徒自身が考えるよう段階的に指導する。

子育てや幼児児童生徒の指導・支援に困ったときは、お気軽にご相談ください。

～佐賀県立ろう学校～

TEL:0952-30-5368

FAX:0952-34-1043

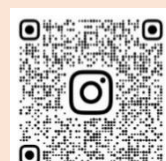
Mail:rougakkou@education.saga.jp



ホームページ



メール



乳幼児教育相談の
インスタグラム